

プレスリリース | 2023 August
カール・ハンセン & サン 新作情報

建築家ヴィルヘルム・ラウリッツェンによる新作 VLA61 モナークチェア 希少なコレクターズアイテムがカール・ハンセン & サンより遂に初の製品化

2023年10月2日（月）発売スタート



カール・ハンセン & サンは、デンマークが誇る建築家 Vilhelm Lauritzen（ヴィルヘルム・ラウリッツェン 1894～1984）が1944年にデザインし10点のみ製作された「VLA61 モナークチェア（Monarchチェア）」を製品化し、2023年10月2日（月）より発売します。

デンマークを代表する建築家であり、デンマークモダニズムの父とも呼ばれるヴィルヘルム・ラウリッツェンは、ある建築プロジェクトのために、「VLA61モナークチェア」をデザインしました。結局建築は実現しませんでした。椅子は10点だけ製作されました。これまで、この希少な椅子は世界中のオークションで高額の値とされたコレクターズアイテムでしたが、今回、カール・ハンセン & サンがはじめて製品化し発売することにより、より多くの人々に愛用していただけるようになります。

VLA61モナークチェアは、生涯を通して蝶に強い関心を持ち、研究にいそしんだヴィルヘルム・ラウリッツェンへのオマージュを含め、モナークバタフライ（アゲハチョウ）にちなんで名付けられました。ゆったりとした座り心地の良い座面、湾曲するアームレスト、オーガニックなティアドロップ形のバーの曲線。そこには、軽快かつ豊かな芸術的表現があります。小さく真鍮を施した脚部や手作業で磨かれた接合部などのディテールには、ラウリッツェンの一貫したデザインの特徴が表れています。多くのパーツが美しい湾曲を描く本製品は、製造技術に長い歴史と高い経験がある家具メーカーカール・ハンセン & サンにとっても、複雑で時間のかかる作業で、Vilhelm Lauritzen Architects（ヴィルヘルム・ラウリッツェン・アーキテクト）との協業により製品化が実現しました。



熟練の職人による「VLA61モナークチェア」の製作

多くのパーツが二重に湾曲している「VLA61モナークチェア」の生産は、カール・ハンセン&ソンのように経験豊富な家具メーカーにとっても、複雑で時間のかかる作業です。どのパーツも手作業で研磨してから組み立て、次に椅子全体、特に接合部周辺を再び手作業で研磨して、ようやく完璧な仕上がりになります。アームレストと後脚の周囲がきっちりと仕上がるよう、バックレストは椅子に取り付けた後に初めて張り加工が施されます。ここにも、カール・ハンセン&ソンの張り加工職人の熟練した技が求められます。

ヴィルヘルム・ラウリッツェンのデザイン

ヴィルヘルム・ラウリッツェン設計による建築物は、今日文化遺産として、機能主義に基づく先駆的なアプローチの証となっています。完璧主義を極めたラウリッツェンは、椅子、テーブル、シャンデリアから備品、ドアハンドル、ソケットまで、どの建築プロジェクトにおいてもインテリアまで手掛けた、ディテールの達人でした。今日、彼が手がけた多くのプロジェクトは、当時としては画期的な、形態に機能を従わせた建築の好例として残されています。

カール・ハンセン&ソンのCEOクヌード・エリック・ハンセンのコメント

デザインの名作を集めたカール・ハンセン&ソンの豊富なコレクションに、「VLA61モナークチェア」というヴィルヘルム・ラウリッツェンの傑作がまた一点加わります。昨年、Vilhelm Lauritzen Architectsの設立100周年を記念し、同社とのコラボレーションにより発売したVegaチェアとFoyerシリーズは、世界中で大きな反響を呼んでいます。デンマークのデザインを世に広め、ヴィルヘルム・ラウリッツェンの民主的なデザイン理念に則ってその家具デザインを世界中の人々に紹介できることを嬉しく、誇りに思っています。

アン・モラー・ソレンセン(ヴィルヘルム・ラウリッツェン・アーキテクト)のコメント

モナークチェアは非常に美しく、ヴィルヘルム・ラウリッツェンのデザインの特徴が顕著に表れています。二重に湾曲したアームレストと美しいオーガニックなフレームは、明快な表情を持ち、非常に快適で、座った瞬間にあなたを包み込みます。そこで私たちは、カール・ハンセン&ソンを指名し、椅子の生産を委託しました。しかし、当初製作された希少な椅子は1つとして見つからず、生産に至る道のりは困難でした。デザイナーによる当初のスケッチ、詳細な手描きの図面、古い写真、オークション出品物の解説などを手掛かりにするしかなかったのです。製作過程では、素材に対する考え方を明確にして椅子に現代的な表情を持たせながら、元のデザインにできるだけ近づけるよう心を砕きました。

製品情報

製品名 VLA61 モナークチェア (Monarchチェア)

サイズ (cm) 高さ 87、シート高 45、奥行き 61、幅 69

参考小売価格 443,300円～ (税込)

素材 フレーム：FSC®認証オーク (FSC C135991) または FSC®認証マホガニー (FSC C135991)
座面と背もたれ：レザーまたはファブリック
脚部：真鍮

発売日 2023年10月2日 (月)

Press Image

<https://carlhansen.presscloud.com/digitalshowroom/#/selection/800215632262310>

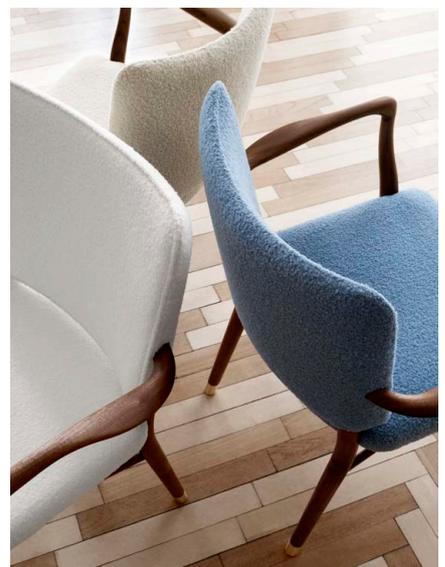
Look Book

https://presscloud.com/file/15/156829982545144/JP_CHS_Look-Book_VLA61.pdf

Line Drawing

https://presscloud.com/file/77/779486822543928/VLA61_stregtegning_GH.pdf

PHOTO IMAGE



Vilhelm Lauritzen (ヴィルヘルム・ラウリッツェン) プロフィール / 1894-1984



ヴィルヘルム・テオドア・ラウリッツェンは、デンマークを代表する建築家であり、デンマークモダニズムの父とも呼ばれています。今日、彼が手がけた多くのプロジェクトは、当時としては画期的な、形態に機能を従わせた建築の好例として残されています。彼はそのキャリアを通じて、建築は一部の特権階級のためだけでなく、すべての人のために役立つ応用芸術であるべきだと主張しました。ラウリッツェンの代表的な作品には、現在ヴィルヘルム・ラウリッツェン・ターミナルとして知られるコペンハーゲン空港の最初のターミナル（1939年）、フレデリクスベアにある国営放送局の建物ラジオハウス（Radiohuset、1945年）、コペンハーゲンのコンサートホールVega（1956年）、ワシントンDCのデンマーク大使館（1960年）などがあります。

ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、1894年9月10日、デンマークのスレイズという町で生まれました。ソールにある高校（Sorø Akademi）を1912年に、コペンハーゲンの王立芸術アカデミーの建築学部を1921年に卒業し、その翌年Tegnestuen Vilhelm Lauritzen（今日のVilhelm Lauritzen Architects）を設立しました。また、研究のためスペインとギリシャを訪れ、1922年に建築家フリッツ・シュレーゲルと共同で優勝した設計コンペ作品であり初の大作であるデパート「Daells Varehus」をはじめ、ラウリッツェンの後の作品に大きな影響を与えました。

ラウリッツェンのデザインは、空間や形状は何世代も持ちこたえるべきものだ、という明確な思想を表現しています。同時代の建築家と比較して、ラウリッツェンの建築がいかに画期的であったかが分かります。建築において長年焦点となっていたのは、建築物の形状や装飾です。しかし、ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、自由な発想で機能性を重視したアプローチをしました。そこから、一見しただけでは彼の才能を見落としてしまうような、シンプルかつ機能性に優れた作品が生み出されました。

プロフィールの詳細は下記よりご覧いただけます。

https://presscloud.com/file/84/846383894025678/JP_Vilhelm_Lauritzen_designerprofil_VLA.pdf

プレス関係のお問合せは下記までお願いいたします。

カール・ハンセン&サン ジャパン株式会社

ブランド コミュニケーション マネージャー 阿部理歩 AYAHO ABE MAIL : ayab@carlhansen.jp

カール・ハンセン&サン ジャパン PR SUPPORT

株式会社ハウ MAIL : chs_pr@how-pr.co.jp TEL : 03-5414-6405

メディア掲載時のクレジットは下記記載をお願いいたします。

お客様お問合せ先：

カール・ハンセン&サン フラッグシップ・ストア東京/大阪 <https://www.carlhansen.com>

もしくは

カール・ハンセン&サン フラッグシップ・ストア東京 03-5413-5421